

《コンベンション開催動向調査事業》

調査目的	コンベンション誘致に向けた基礎情報の収集と効果的な誘致活動を行うための誘致戦略の方向性や提案メニューを定め、今後の誘致活動の強化に繋げていく。
------	---

1. コンベンション主催者のニーズ分析調査 (回答件数 12 件。望ましい支援策やおもてなし等を調査)

- ・開催地決定の3大条件は「交通の利便性」「適切な施設」「宿泊の確保」。
- ・求められる開催支援は「開催費等の補助」や「会場の紹介」。このほか、スポーツ系は「宿泊施設のあっ旋、紹介」「機器、機材等の支援」であり、ビジネス系は「歓迎看板やのぼりの設置」など。
- ・開催地に求める「おもてなし」は、「歓迎看板等の歓迎ムード」のほか、スポーツ系は「会場での土産品コーナーの設置」、ビジネス系は「観光パンフレット等での情報提供」、「会場での伝統芸能などの実演」など。
- ・ビジネス系の方がスポーツ系よりもアフターコンベンションの期待が大きい。

2. コンベンション実態調査 (回答件数 986 件。参加者の消費実態等を調査)

- ・日帰り：宿泊≒4：6。スポーツ系は日帰りと宿泊が同程度。ビジネス系は宿泊(連泊)が多い。
- ・利用する交通機関は、スポーツ系は自家用車等(8割超)、ビジネス系の新幹線利用(6割)が多い。
- ・市内消費額(平均)は、ビジネス系がスポーツ系に対して1.6倍程度となっている。ビジネス系は土産代や飲食代を中心とした市内の消費率も高いことから、誘致ターゲットとして費用対効果が高い。

3. 市の現状分析

《SWOT分析(強み・弱み・機会・脅威)》

	強み	弱み
内部要因	<ul style="list-style-type: none"> ●適切なコンベンション施設 ●利便性の高い陸路の高速交通(のぞみ停車、市内4ヶ所の高速道路IC) ●JR徳山駅周辺に集中した手頃な宿泊施設 ●大会の開催地、宿泊、飲食、会食、買い物、散策がコンパクトな範囲で可能 ●コンベンションに係る取組を担う活動団体(周南観光コンベンション協会、体育協会など) ●先進的な技術を有する企業の立地(水素、港湾など) ●開催を支援する補助制度&サポート体制 ●アフターコンベンションで活用可能な資源(工場夜景、大津島など) ●周辺の有名観光地(岩国、防府など) ●高い安全性(治安、災害等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●周南市のブランド力が弱い(知名度、観光、土産品、情報発信不足など) ●他地域との差別化や独自性を発揮できる特徴的なおもてなしが確立されていない(ユニークメニューが未開発など) ●複数の分科会に対応した施設 ●VIPやハイグレード層向けの宿泊施設がない ●大学や病院等のキーパーソンとの連携が不十分 ●夜間、商店街で買い物できる店が少ない ●十分に活用しきれていないウォーターフロント(県施設としてポートビル建設の計画あり)
外部要因	<ul style="list-style-type: none"> ●国における地方創生に向けた取り組みの活発化 ●国や山口県の積極的な観光施策(MICEやインバウンドの推進、クールジャパン・ブーム) ●東京オリンピック等に向けたスポーツ活動の活発化 ●山口県の有名土産品 ●NHK大河ドラマの放映(H27)、明治維新150年(H30年)による「長州」への注目度増 ●山口宇部空港におけるLCC乗入の開始 ●国内生産への回帰ムード ●アジア等周辺新興国の経済成長 	<ul style="list-style-type: none"> ●北陸新幹線の開通及び北海道新幹線の整備 ●コンベンションビューローの増加 ●景気の低迷や不安定な国際金融情勢 ●少子高齢化に伴う人材不足 ●IT化の進展
	機会	脅威

4. 周南市の誘致戦略の方向性

(1) コンベンション誘致に向けた分類

スポーツ系	各種スポーツ大会・試合、合宿、スポーツイベント など
ビジネス系	企業や学会の会議、業界団体等の大会、研究発表会、展示会・見本市 など
国際会議	政府間の会議、国際機関の会議、特殊な技術的な会議 など
その他	興行イベント、任意団体の同好会、同窓会 など

(2) コンベンションの分類による評価

	開催地決定の三大要素			稼働状況(現状)	施設の余力(今後)	地元素地(団体・体制)
	適切な施設	交通の利便性	宿泊の確保			
スポーツ系	◎ 総合SC	◎ 車	○	◎	△	◎
ビジネス系	◎ 文化会館 他	◎ 新幹線	○	○	◎	◎
国際会議	× 多言語	△ 国際線	× 多言語	—	×	△
その他	○ 各種施設	○ 各種交通	○	○	○	—

(3) 誘致ターゲット像

種類/規模、参加人数	規模(集客範囲)	参加人数
スポーツ系	中国大会、西日本大会	1,000 人程度
ビジネス系	全国大会	

【スポーツ系】

《方向性》

- ・今後、東京オリンピック等に向けたスポーツ活動の活発化が見込まれるなど、機会に恵まれている。
- ・「麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター」など、コンベンション開催に適切なスポーツ施設が集積されている。
- ・現在、「麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター」では既に多くのスポーツ系大会が「休日」に開催され、地元団体のスポーツ活動の場でもあることも考慮すると、「休日」開催による新規のコンベンション誘致には一定の制約がある。
- ・そこで、更なる誘致に向けては「平日」開催の大会を誘致することが望まれる。そのためには、社会人の大会であれば「休日」開催が求められる可能性が高いため、長期休暇を活用した学生の大会や合宿などをはじめ、シルバースポーツ大会など、「平日」開催が可能なコンベンションの誘致を目指すことが望ましい。
- ・なお、この戦略は「これ以上、休日の大会誘致は難しい。」ことを前提にしていることから、現状を維持することが重要であり、シルバー系スポーツ大会等は“上乘せ部分”として位置付けられる。
- ・スポーツ系大会は参加者の消費単価が低いことから、地域経済への波及効果を高めるためには、消費機会の提供等を積極的に行うことが望ましい。

《誘致対象》

- ・スポーツ系は車利用者が多く、施設の近くに高速道路のICがあるといった利便性の高さは優位な条件としてアピールできるが、参加者の移動距離・時間を考慮すると、中国大会、あるいは西日本大会といった範囲が現実的な誘致の対象と思われる。

【ビジネス系】

《方向性》

- ・会場となる施設は規模に応じて複数あり、稼働状況に余裕(受入余地)があるため積極的に誘致することが望ましい。
- ・また、他地域との差別化や市の独自性を発揮できる特徴的なおもてなしとして、ユニークメニューを定めることにより、効果的な誘致活動に繋げていくことが重要である。
- ・ビジネス系コンベンションは、スポーツ系コンベンションに比べて消費単価が高く、宿泊数も多い傾向にあることから、地域経済への波及効果が大きい。

《誘致対象》

- ・ビジネス系の参加者は新幹線の利用が半数に達することから、「のぞみ」の利用が可能であることは優位な条件であり、さらに空港からも1時間半程度でアクセスできることから、誘致対象としては全国大会までを視野に入れるべきである。